

5. NIPPON防災資産の認定候補案

淀川河川事務所

- 淀川資料館は、日本初の「河川博物館」として、過去に起きた大洪水の歴史や、明治時代に行われた淀川改良工事に関する文献や図面などを所蔵しており、「くらしと淀川」「淀川の歴史」「淀川の環境」をテーマに展示を行う”河川広報施設”
- 流域内広報施設同士での連携を継続実施しており、地域連携のもと災害伝承をはじめとした取組を推進している。
- 来館者への説明(淀川の歴史・過去の洪水等)を行っている。

■ 淀川資料館における各種取組の内容

- ・ 淀川改修の貴重な歴史的資料を保存、展示。
- ・ 流域内の学校や各種団体から、施設見学の要望が多く寄せられ年20回程度、団体説明を実施。
説明では淀川の歴史や洪水の歴史等をわかりやすく解説。
- ・ 上記の他、夏期は夏休みの小学生をターゲットにした企画展示、秋期は流域内広報施設と連携した企画展示を行う等、効果的な広報に努めている。



団体説明状況

2024年度淀川資料館夏期企画展示



■ 流域内広報施設同士での連携

- ・ 流域内広報施設との連携を継続的に実施（合同企画展等）
- ・ 施設連携により、多くの住民を巻き込むとともに、合同企画展と史跡巡り等のイベントを同時開催し、来館者に深く歴史を感じてもらうような取組を実施。



淀川資料館



門真歴史資料館



鍵屋資料館

高槻市

淀川大塚切れ洪水記念碑と伝承式

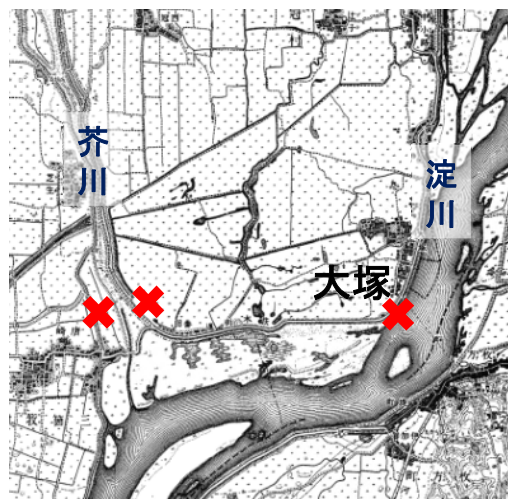
名称	活動拠点	対象災害	災害の概要、これまでの経緯など
淀川大塚切れ 洪水記念碑と伝承式	大阪府 高槻市	大正6年 淀川大塚切れ	・大正6年10月1日、台風による大雨で淀川の水位上昇により、高槻市大塚町の堤防が200mにわたって決壊し、淀川右岸一体で甚大な被害が発生した。（淀川三大洪水の一つ） ・大塚切れから100年を迎えた平成29年には、「淀川サミット」が開催され、大塚切れをはじめとする過去の水害の歴史と教訓の「伝承」や治水事業に取り組まれた先人への「感謝」、淀川流域の未来に向けた「流域一体となった取組の継続」など5項目が「淀川宣言」として採択された。 ・以降、高槻市では、大塚切れの被災者への哀悼の意ならびに先人への敬意と感謝の気持ちを表し、水害から市民の生命・財産を守るための努力をし続ける決意を再確認するため、淀川大塚切れ伝承式を毎年開催している。 ※令和5年度からは、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所の職員も出席 ・洪水記念碑は、昭和5年に磯村弥右衛門（のちの初代高槻市長）らが往年の災害を振り返り、支援への感謝や将来の戒めとして建立したものである。洪水記念碑のそばには、銘板や歴史案内板も設置され、来訪者に過去の水害の歴史と教訓をわかりやすく伝えている。

淀川大塚切れ 洪水記念碑



「淀川の水は永遠に流れ続け 災害となって降りかかって来るときもある人はそれも自然の摂理と受け止め 安楽に暮らしていても絶対に危機のあることを忘れてはならない」（碑文要約文より抜粋）

淀川大塚切れ



浸水・流出家屋
約15,000戸
被災者数
約65,000人

大正6年10月1日 早朝
芥川 右岸、左岸が決壊

同日 午前8時40分
淀川の大塚堤防が決壊



伝承式開催状況



淀川サミット (H29.10.1)

